

# 上関

かみのせき  
瀬戸内海の豊かさが  
残る最後の場所

豊かな生物相と高い生産力に恵まれた瀬戸内海。その豊かさがほとんどの場所  
所で失われた今も、上関のまわりには、驚くほど多様な生物が残っています。こ  
こでの原子力発電所建設計画について、生物学研究者の三学会(日本生態  
学会、日本鳥学会、日本ベントス学会)は、もっと慎重な環境アセスメントを求め  
る要望書を提出しました。その内容を一般に紹介します。



日時 2010年7月25日(日) 13:30~16:45

会場 京都大学吉田キャンパス  
吉田南4号館1階「4共11」教室 (京都市左京区吉田二本松町)

参加費:500円(資料代)

京阪電車(鴨東線)「丸太町」徒歩10分、バス停「京大正門前」下車、吉田キャンパス西門をお入り下さい。

- プログラム(13:00会場 / 13:30開会)  
はじめに 「学会からの要望書提出の経緯」  
佐藤正典(鹿児島大学)
- 講演1 「周防灘に残されている瀬戸内海の内原風景」  
加藤真(京都大学)
- 講演2 「上関に生息する希少な鳥類について」  
飯田知彦(九州大学大学院・日本生態学会)

### 学会からの要望書の説明

安溪遊地(日本生態学会上関問題要望書アワーケア委員会委員長)  
佐藤重徳(日本鳥学会鳥類保護委員会副委員長)ほか

### コメント「上関周辺に生息する希少魚類について」

岩田明久(京都大学・日本魚類学会)

### コメント「陸上生物、里山の観点から」

野間直彦(滋賀県立大学)

### コメント「生物多様性条約に基づく国の政策」

国会議員(調整中)

- 主催 / 日本生態学会 自然保護専門委員会  
日本鳥学会 鳥類保護委員会  
日本ベントス学会 自然環境保全委員会
- 後援 / 日本魚類学会 自然保護委員会  
(財)日本自然保護協会  
(財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン  
パードライフ・インターナショナル  
ラムサール・ネットワーク日本  
生物多様性条約市民ネットワーク

